

外国人住民を対象とした日本語教育等に関するアンケート調査結果

(1) 調査方法

京都府国際センターホームページ上の調査及び質問紙調査。

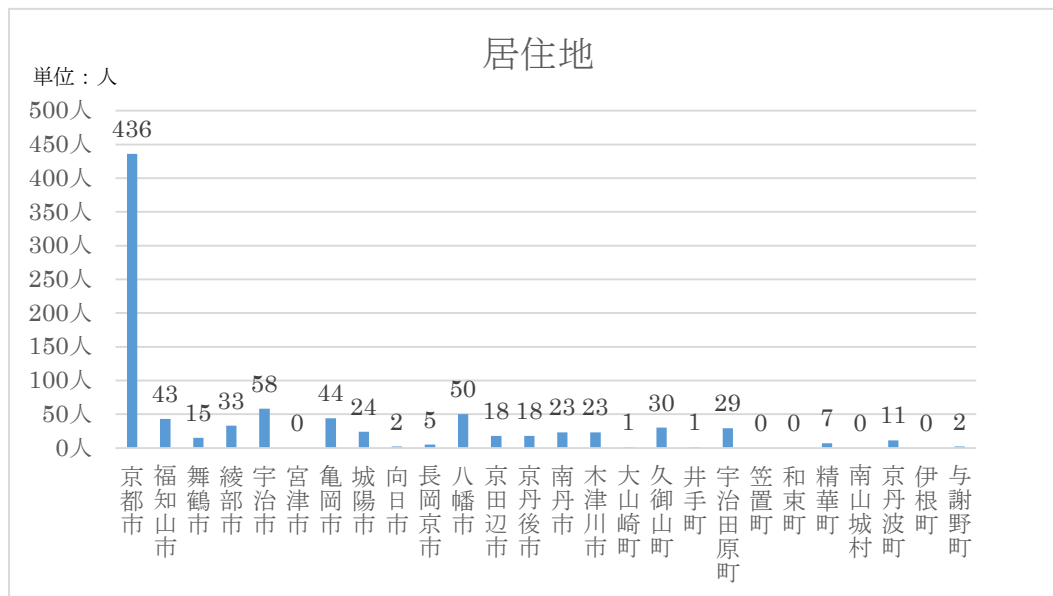
言語は、日本語のほか英語、韓国語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語、ネパール語、タイ語、フランス語を用意。

(2) 回答結果 (回答数 875 人)

1. 回答者の属性について

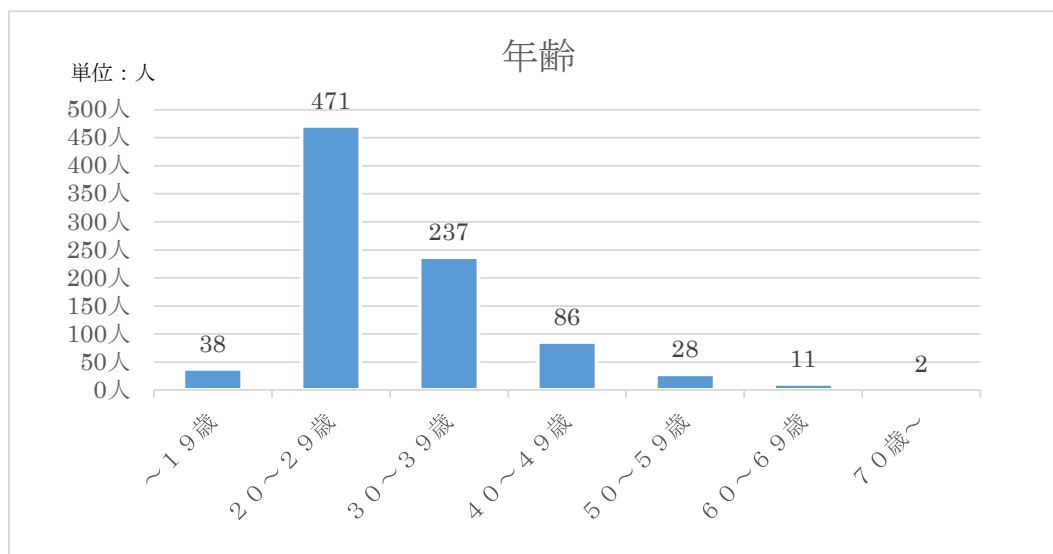
Q1 あなたがお住まいの市町村は次のどれですか。(N=873 人)

回答者の居住地は「京都市」が 436 人 (50%) と最も多く、以下、「宇治市」が 58 人 (7%)、「八幡市」が 50 人 (6%)、「亀岡市」が 44 人 (5%)、「福知山市」が 43 人 (5%) などとなっている。



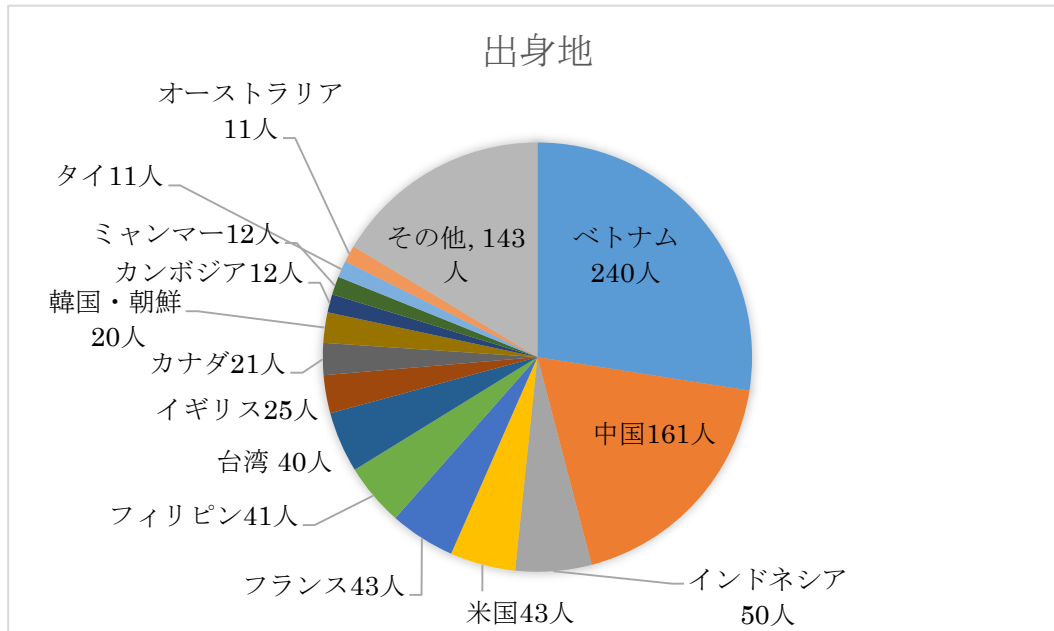
Q2 あなたの年齢は次のどれですか。(N=873)

回答者の年齢は「20～29歳」が 471 人 (54%) と最も多く、以下、「30～39歳」が 237 人 (27%)、「40～49歳」が 86 人 (10%) などとなっている。



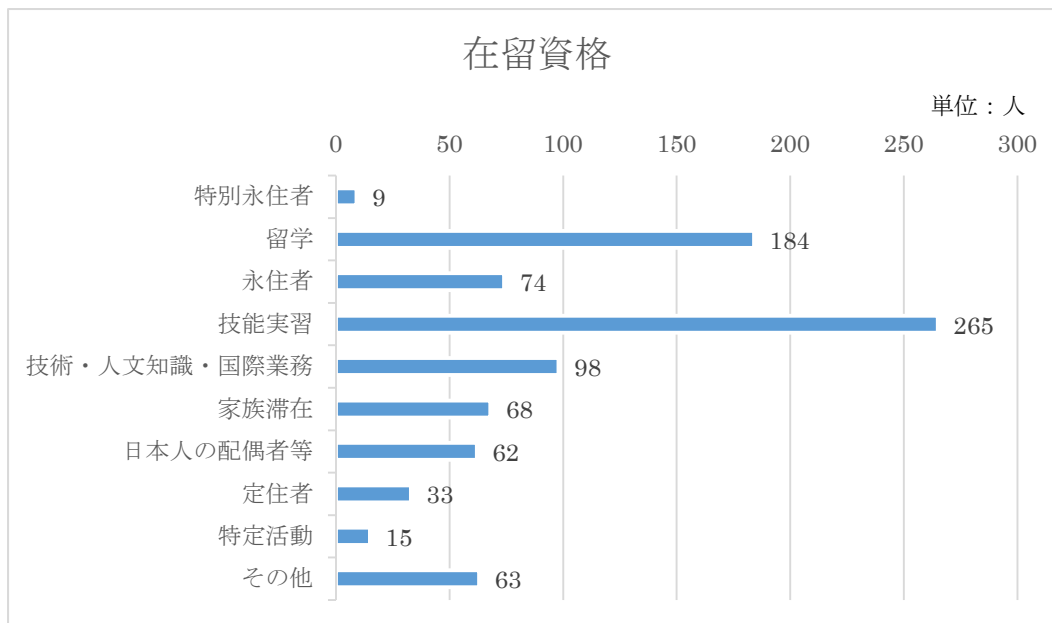
Q3 あなたの出身地は次のどれですか。(N=873 人)

回答者の出身地は「ベトナム」が 240 人 (27%) と最も多く、以下、「中国」が 161 人 (18%)、「インドネシア」が 50 人 (6%) などとなっており、合わせて 70 か国・地域に及んでいる。



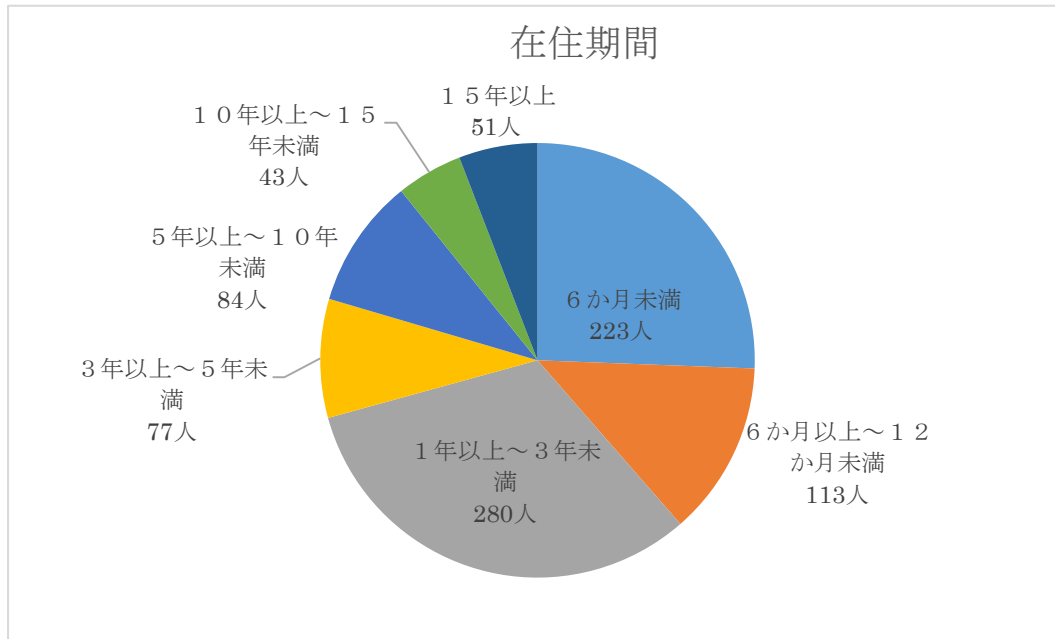
Q4 あなたの在留資格は次のどれですか。(N=871人)

回答者の在留資格は「技能実習」が265人(30%)と最も多く、以下、「留学」が184人(21%)、「技術・人文知識・国際業務」が98人(11%)、「永住者」が74人(8%)などとなっている。



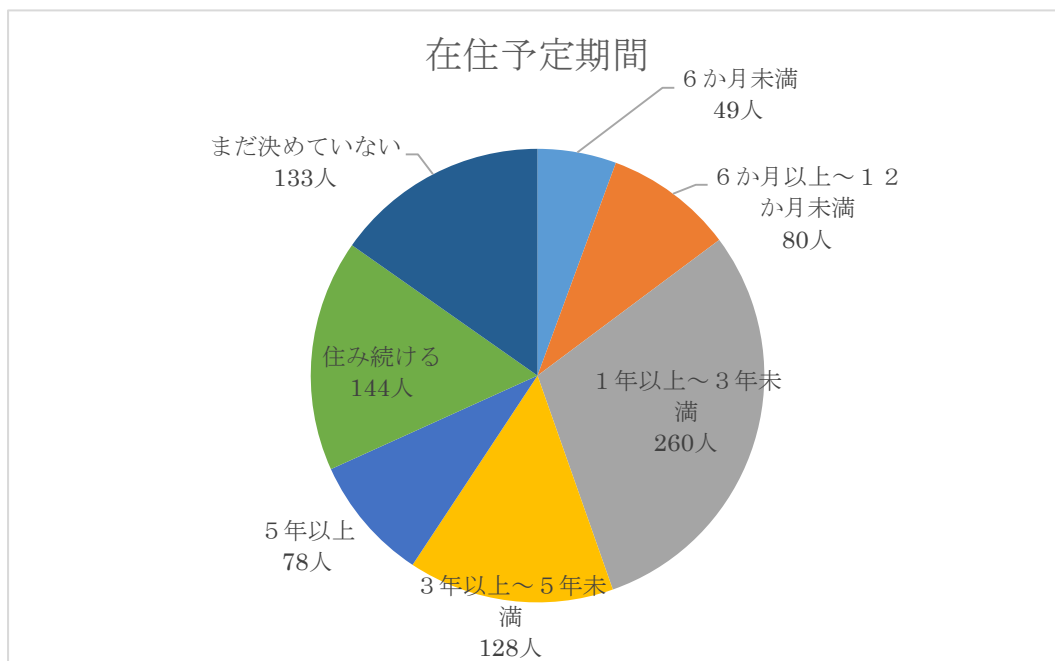
Q5 あなたはどのくらい日本で生活していますか。(N=871人)

回答者の日本での在住期間は、「1年以上～3年未満」が280人(32%)と最も多く、以下、「6か月未満」が223人(26%)、「6か月以上～12か月未満」が113人(13%)などとなっている。



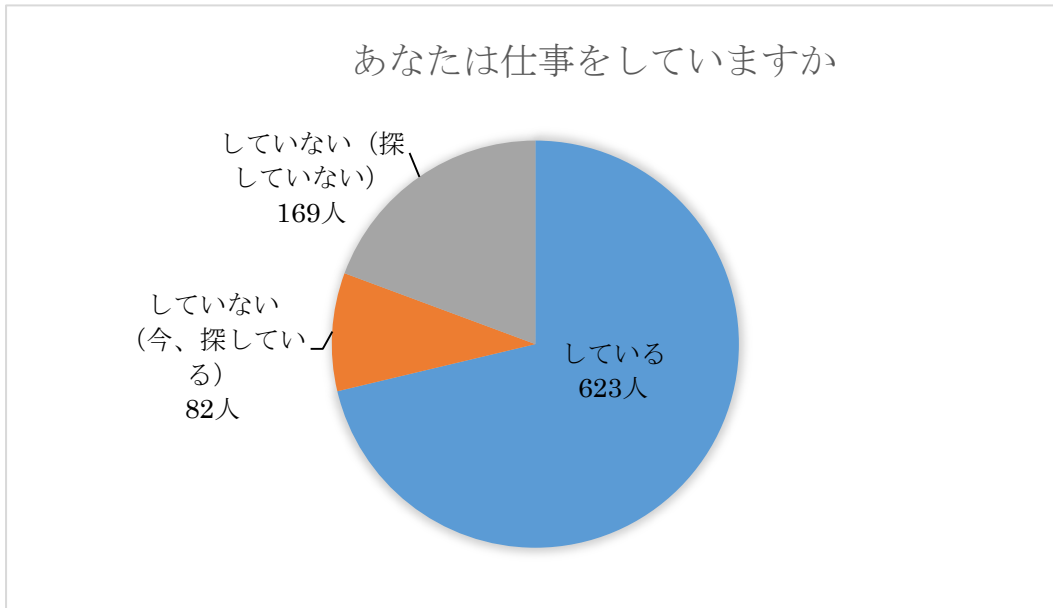
Q6 あなたはこれから、京都府または日本でどのくらい生活する予定ですか。(N=872人)

今後の在住予定は「1年以上～3年未満」が260人(30%)と最も多く、以下、「住み続ける」が144人(17%)、「まだ決めていない」が133人(15%)、「3年以上～5年未満」が128人(15%)などとなっている。



Q7 あなたは仕事をしていますか。(N=874人)

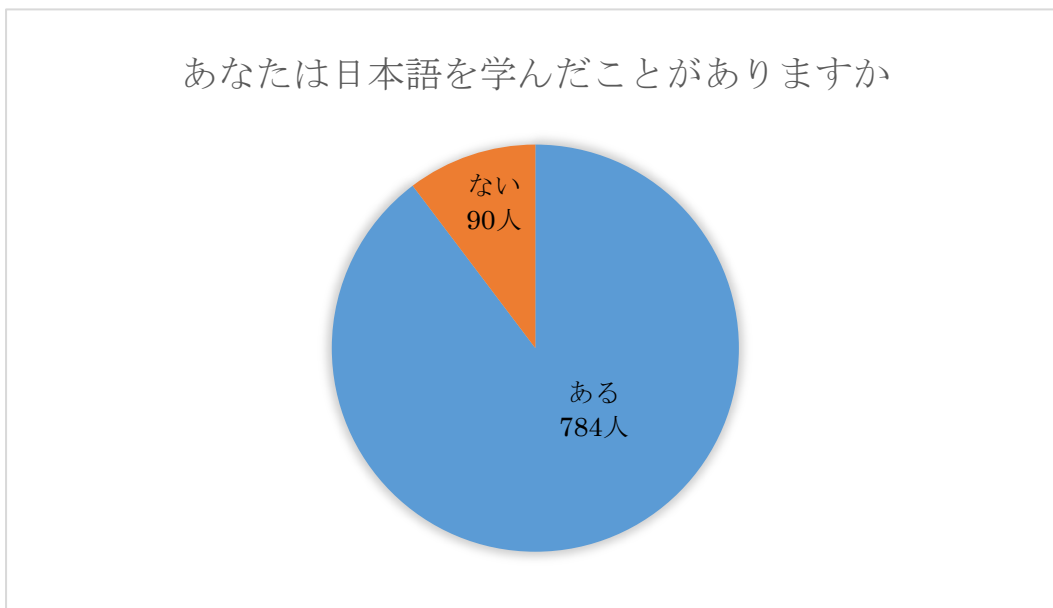
仕事を「している」と回答したのは 623 人(71%)、「していない (探していない)」と回答したのは 169 人(19%)、「していない (今、探している)」と回答したのは 82 人(9%) となっている。



2. 日本語学習について

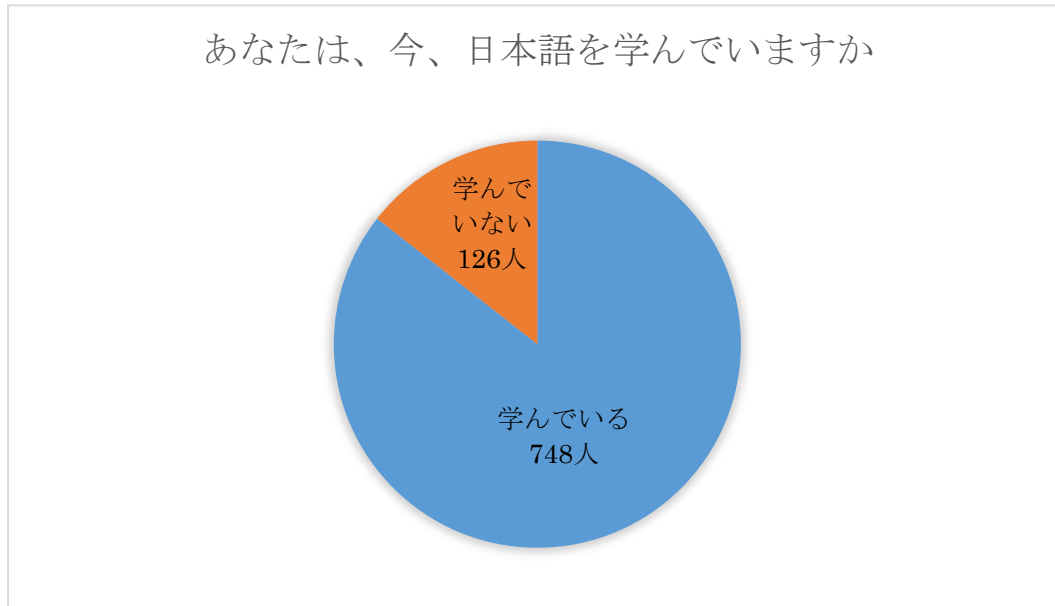
Q8 あなたは日本語を学んだことがありますか。(N=874人)

日本語を学んだことが「ある」と回答したのは 784 人(90%) で、「ない」と回答したのは 90 人(10%) となっている。



Q9 「あなたは、今、日本語を学んでいますか。」(N=874人)

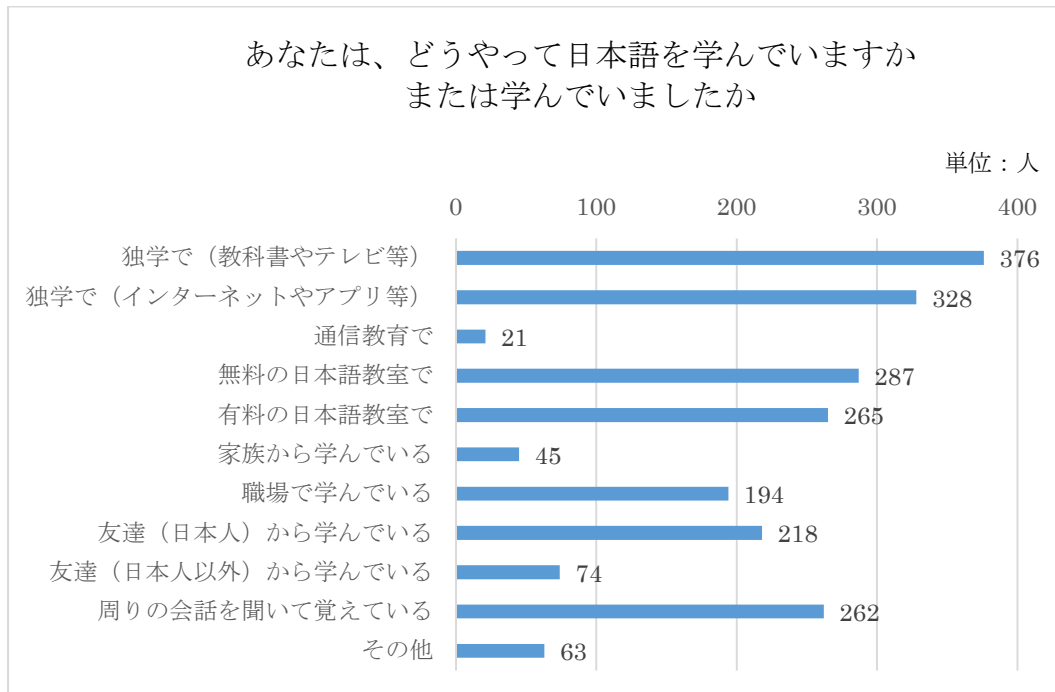
今、日本語を「学んでいる」と回答したのは748人(86%)で、「学んでいない」と回答したのは126人(14%)となっている。



◆日本語を学んでいる方または学んでいた方にお聞きします。

Q10-1 「あなたは、どうやって日本語を学んでいますか。または学んでいましたか。」 *複数回答 (N=746人)

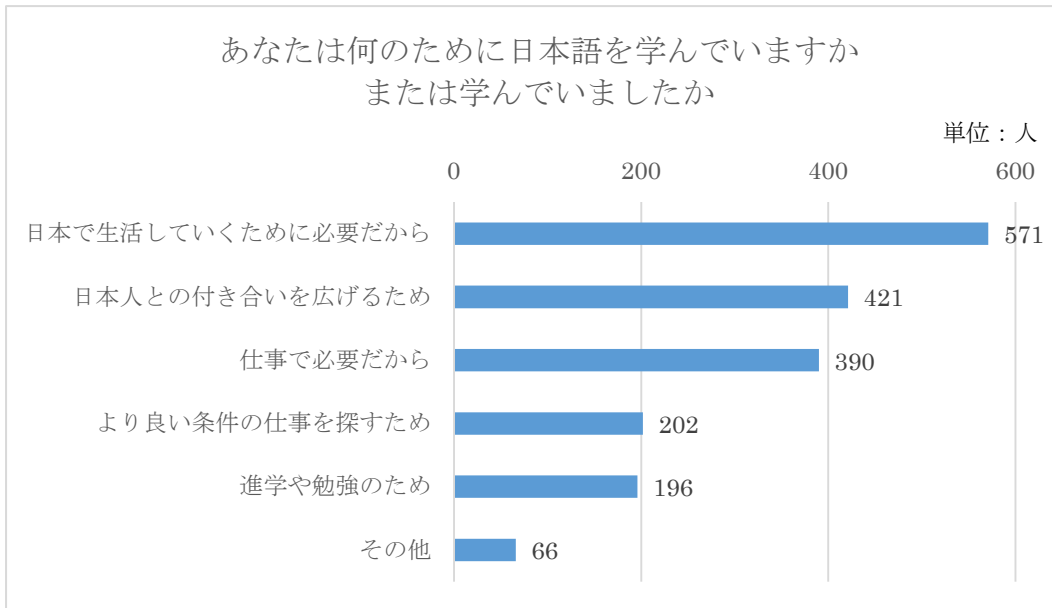
「独学で(教科書やテレビ等)」が376人と最も多く、以下、「独学で(インターネットやアプリ等)」が328人、「無料の日本語教室で」が287人、「有料の日本語教室で」が265人、「周りの会話を聞いて覚えている」が262人、「友達(日本人)から学んでいる」が218人、「職場で学んでいる」が194人などとなっている。



その他の主な内容：大学などの学校／母国の訓練校

Q10-2「あなたは何のために日本語を学んでいますか。または学んでいましたか。」*複数回答 (N=744 人)

「日本で生活していくために必要だから」が 571 人と最も多く、以下、「日本人との付き合いを広げるため」が 421 人、「仕事で必要だから」が 390 人、「より良い条件の仕事を探すため」が 202 人、「進学や勉強のため」が 196 人などとなっている。

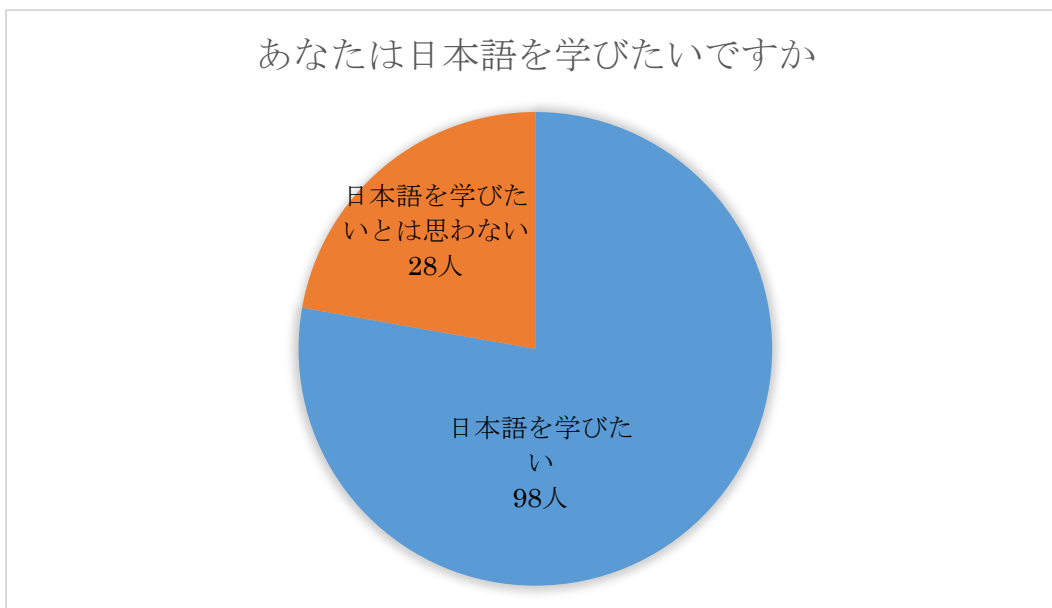


その他の主な内容：趣味・興味／将来のために

◆日本語を学んでいない方にお聞きします。

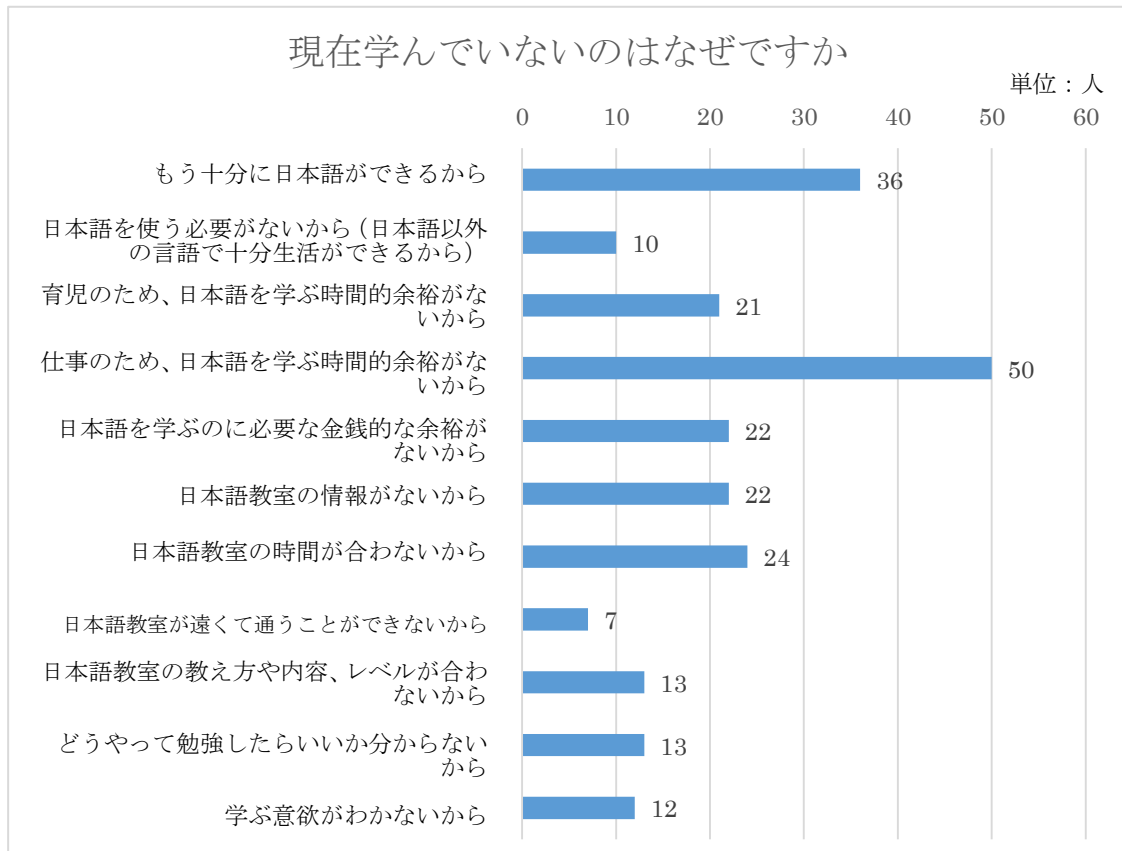
Q11-1「あなたは日本語を学びたいですか。」(N=126 人)

今、日本語を「学んでいない」と回答した 126 人うち 98 人 (78%) が、「日本語を学びたい」と回答している。



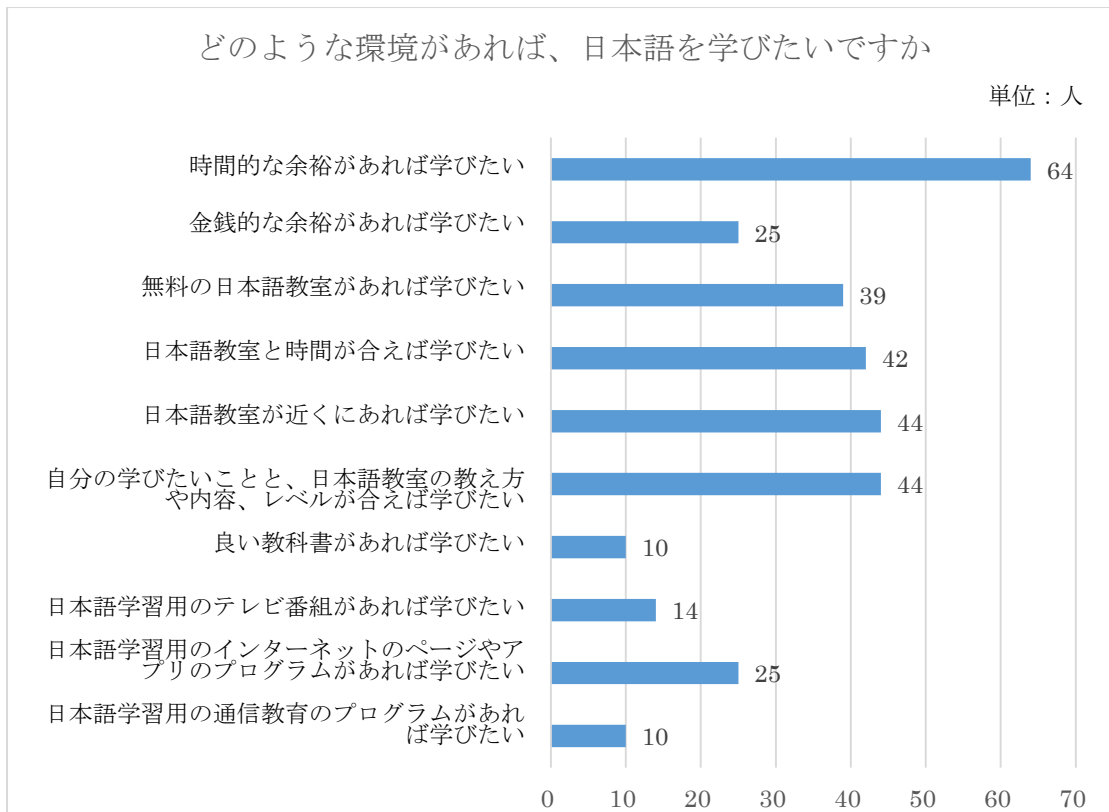
Q11-2 「現在学んでいないのはなぜですか。」 *複数回答 (N=126人)

「仕事のため、日本語を学ぶ時間的余裕がないから」が 50 人と最も多く、以下、「もう十分に日本語ができるから」が 36 人、「日本語教室の時間が合わないから」が 24 人、「日本語を学ぶのに必要な金銭的な余裕がないから」と「日本語教室の情報がないから」がそれぞれ 22 人、「育児のため、日本語を学ぶ時間的余裕がないから」が 21 人などとなっている。



Q11-3 「どのような環境があれば、日本語を学びたいですか。」 *複数回答 (N=126人)

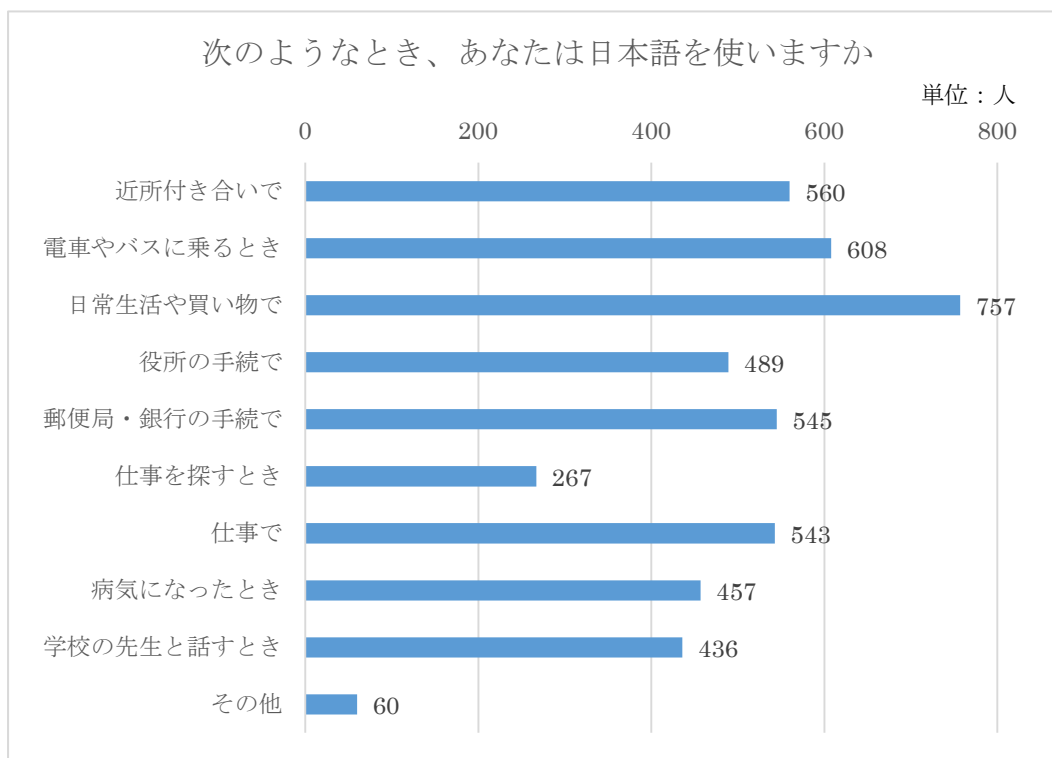
「時間的な余裕があれば学びたい」が 64 人と最も多く、以下、「日本語教室が近くにあれば学びたい」と「自分の学びたいこと、日本語教室の教え方や内容、レベルが合えば学びたい」がそれぞれ 44 人、「日本語教室と時間が合えば学びたい」が 42 人、「無料の日本語教室があれば学びたい」が 39 人などとなっている。



◆すべての方にお聞きします。

Q12 「次のようなとき、あなたは日本語を使いますか。」*複数回答 (N=868 人)

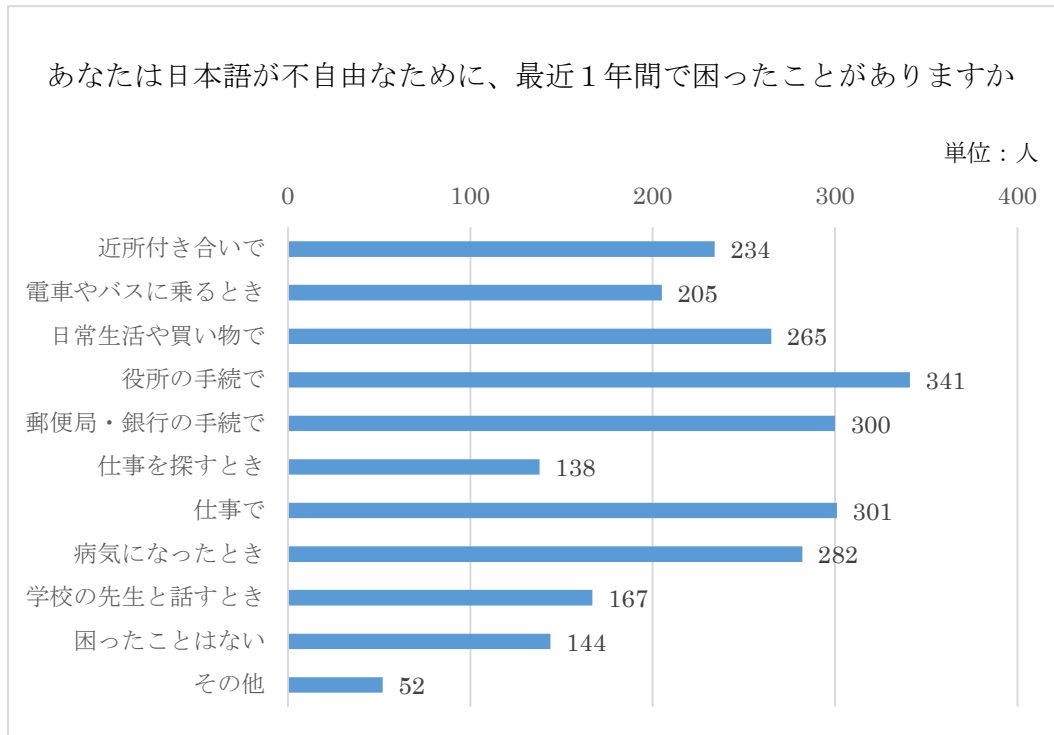
「日常生活や買い物で」が 757 人と最も多く、以下、「電車やバスに乗るとき」が 608 人、「近所付き合いで」が 560 人、「郵便局・銀行の手続きで」が 545 人、「仕事で」が 543 人などとなっている。



その他の主な内容：友達と話すとき／家族と話すとき

Q13 「あなたは日本語が不自由なために、最近1年間で困ったことがありますか。」 *複数回答 (N=868人)

「役所の手続で」が341人と最も多く、以下、「仕事で」が301人、「郵便局・銀行の手続で」が300人、「病気になったとき」が282人、「日常生活や買い物で」が265人、「近所付き合いで」が234人、「電車やバスに乗るとき」が205人などとなっている。

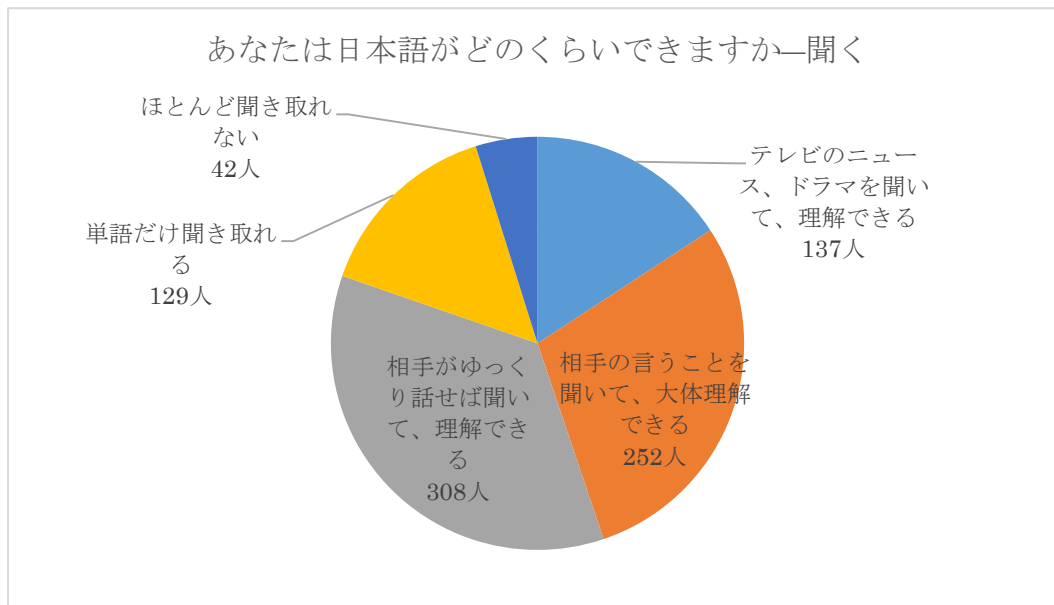


その他の主な内容：電話で話すとき

Q14 あなたは日本語がどのくらいできますか

[聞く] (N=867人)

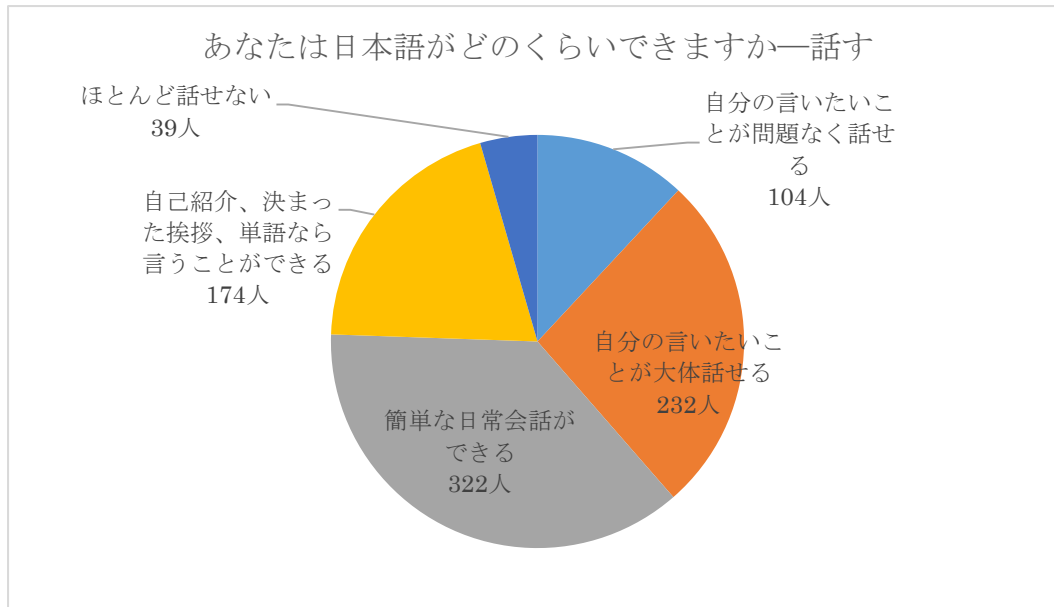
「相手がゆっくり話せば聞いて、理解できる」が308人と最も多く、以下、「相手の言うことを聞いて、大体理解できる」が252人、「テレビのニュース、ドラマを聞いて、理解できる」が137人などとなっている。



[話す] (N=871人)

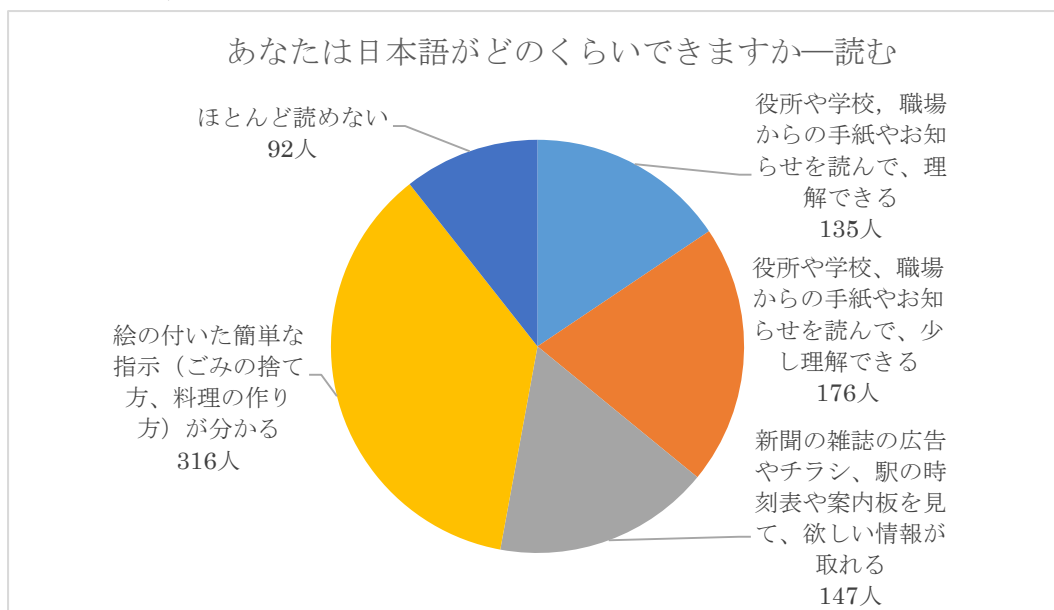
「簡単な日常会話ができる」が322人と最も多く、以下、「自分の言いたいことが大体話せる」が232人、

「自己紹介、決まった挨拶、単語なら言うことができる」が 174 人などとなっている。



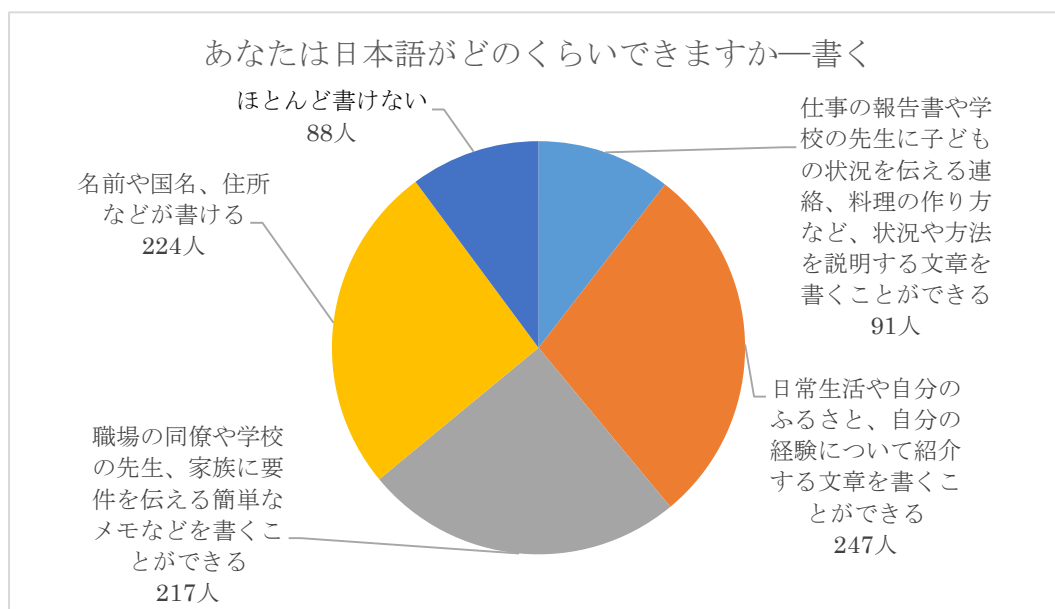
[読む] (N=866 人)

「絵の付いた簡単な指示（ごみの捨て方、料理の作り方）が分かる」が 316 人と最も多く、以下、「役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる」が 176 人、「新聞の雑誌の広告やチラシ、駅の時刻表や案内板を見て、欲しい情報が取れる」が 147 人、「役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる」が 135 人などとなっている。



[書く] (N=867 人)

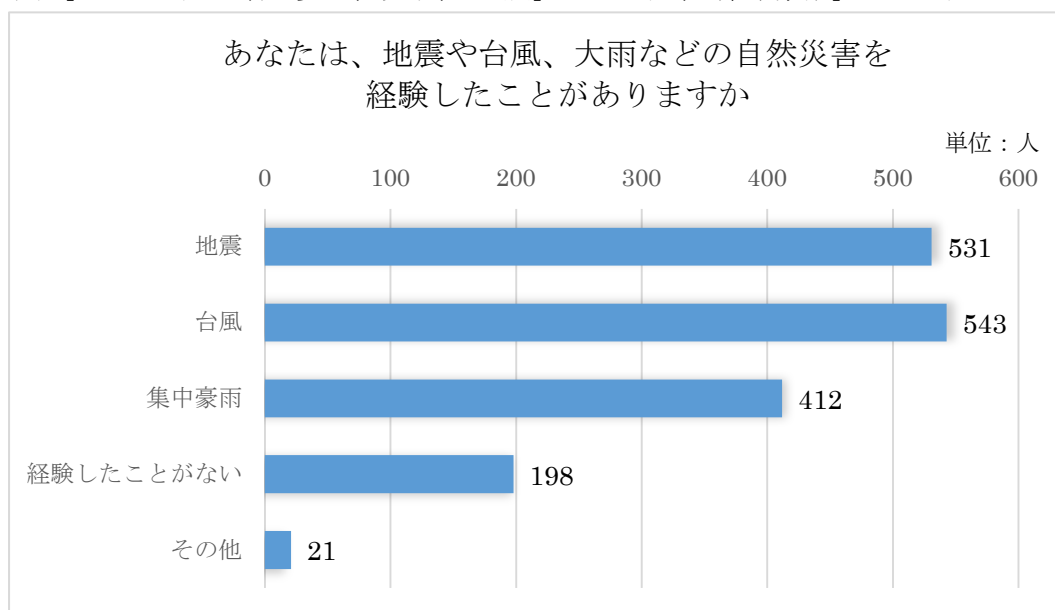
「日常生活や自分のふるさと、自分の経験について紹介する文章を書くことができる」が 247 人と最も多く、以下、「名前や国名、住所などが書ける」が 224 人、「職場の同僚や学校の先生、家族に要件を伝える簡単なメモなどを書くことができる」が 217 人などとなっている。



3. 防災について

Q15 「あなたは、地震や台風、大雨などの自然災害を経験したことがありますか。」 *複数回答 (N=872人)

「台風」が 543 人と最も多く、以下、「地震」が 531 人、「集中豪雨」が 412 人などとなっている。

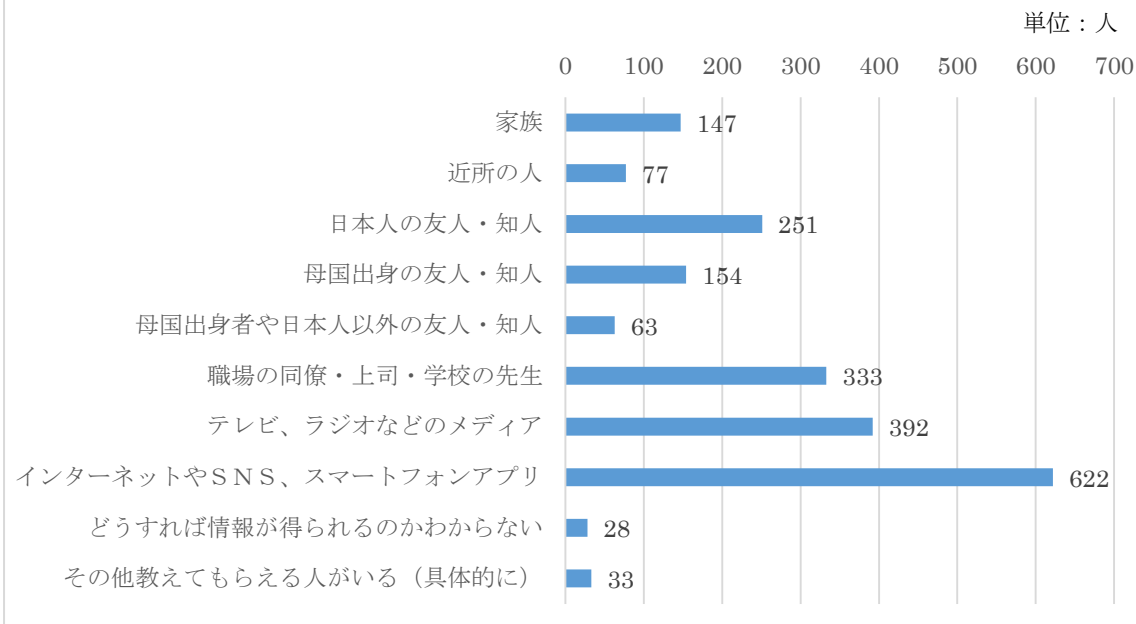


その他の主な内容：ハリケーン／大雪／洪水／津波

Q16 「地震や台風、大雨など自然災害についての情報をどこから得ますか。」 *複数回答 (N=870人)

「インターネットやSNS、スマートフォンアプリ」が 622 人と最も多く、以下、「テレビ、ラジオなどのメディア」が 392 人、「職場の同僚・上司・学校の先生」が 333 人、「日本人の友人・知人」が 251 人などとなっている。

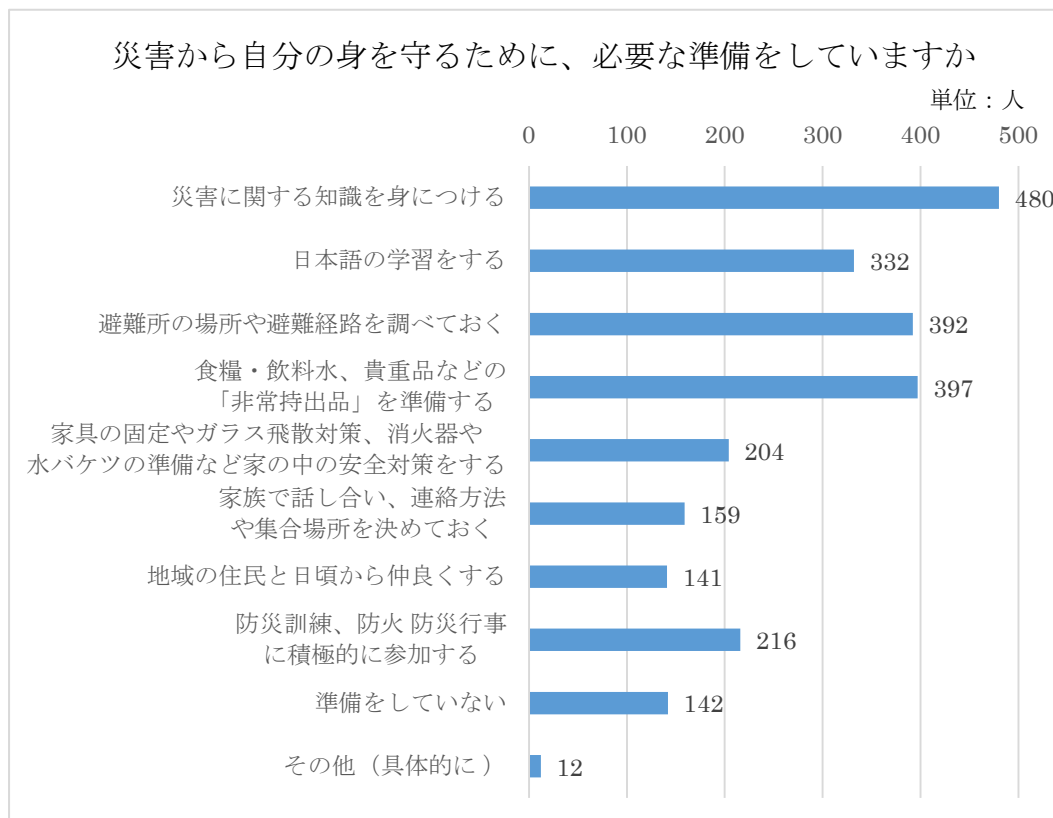
地震や台風、大雨など自然災害についての情報をどこから得ますか



その他の主な内容：管理団体／日本語教室の先生

Q17 「災害から自分の身を守るために、必要な準備をしていますか。」*複数回答（N=870人）

「災害に関する知識を身につける」が 480 人と最も多く、以下、「食糧・飲料水、貴重品などの「非常持出品」を準備する」が 397 人、「避難所の場所や避難経路を調べておく」が 392 人、「日本語の学習をする」が 332 人などとなっている。

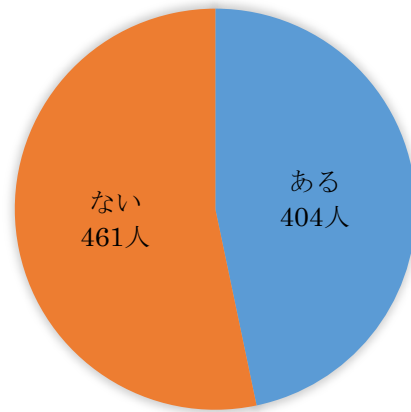


その他の主な内容：職場の防災訓練／日本語教室で教えてもらった

Q18 職場や学校、あなたの住んでいる地域では、防災訓練や防災講習会を行っています。あなたはこうした訓練や講習会に参加したことがありますか。」（N=865人）

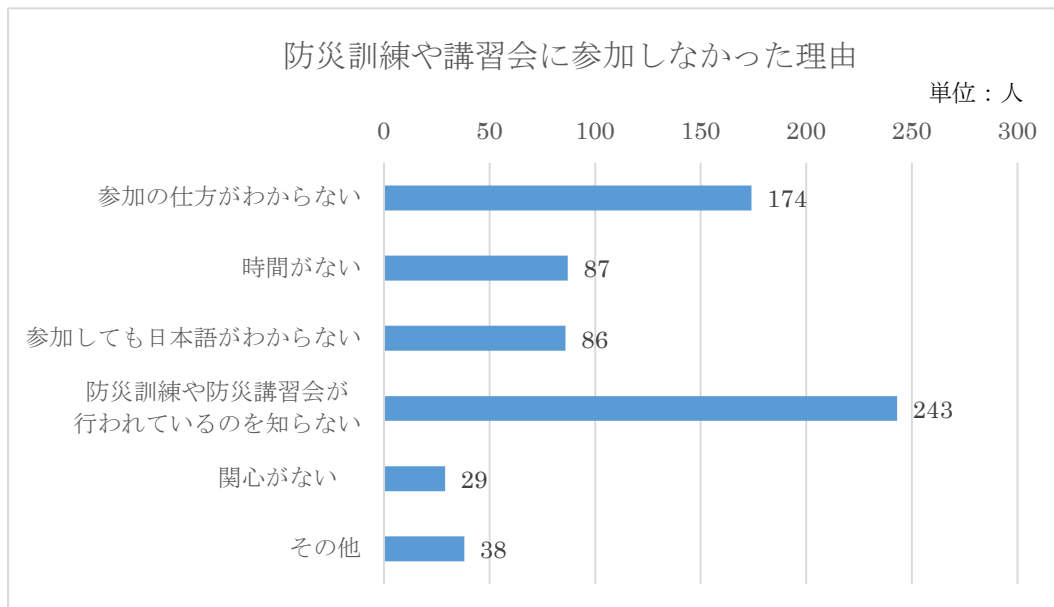
「ない」と回答したのが 461 人（53%）、「ある」と回答したのが 404 人（47%）となっている。

職場や学校、あなたの住んでいる地域の防災訓練
や防災講習会に参加したことがありますか



Q19 参加しなかった理由は何ですか。* *複数回答 (N=459人)

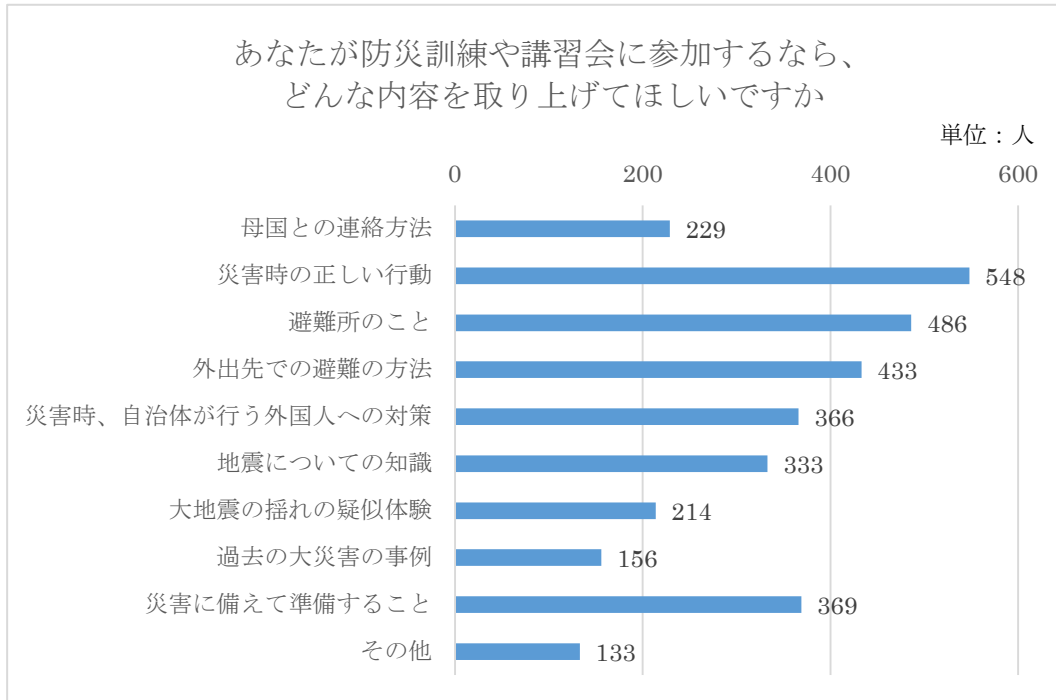
「防災訓練や防災講習会が行われているのを知らない」が 243 人と最も多く、以下、「参加の仕方がわからない」が 174 人、「時間がない」が 87 人、「参加しても日本語がわからない」が 86 人などとなっている。



その他の主な内容：日本に来たばかりでわからない／スケジュールが合わない／会社で行なわれていない／必要ないと思う

Q20 「あなたが防災訓練や講習会に参加するなら、どんな内容を取り上げてほしいですか。」 *複数回答 (N=856人)

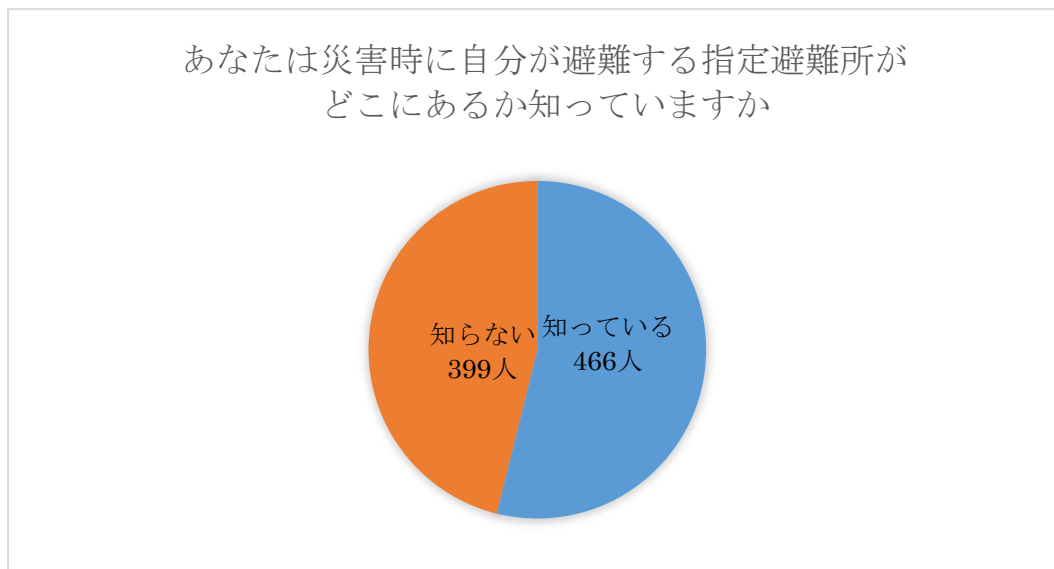
「災害時の正しい行動」が548人と最も多く、以下、「避難所のこと」が486人、「外出先での避難の方法」が433人、「災害に備えて準備すること」が369人、「災害時、自治体が行う外国人への対策」が366人、「地震についての知識」が333人などとなっている。



その他の主な内容：通訳を入れてほしいなど言語に関すること／体験型

Q21 「あなたは災害時に自分が避難する指定避難所がどこにあるか知っていますか。」 (N=865人)

「知っている」が466人(54%)、「知らない」が399人(46%)となっている。

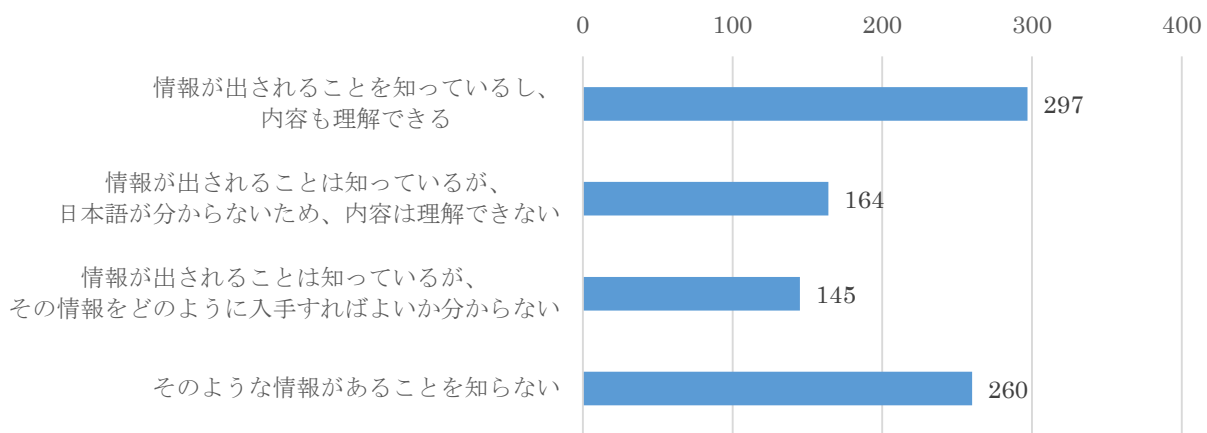


Q22 「自然災害が発生したとき、あなたが住んでいる市町村から避難についての情報が出されることを知っていますか。」 (N=866人)

「情報が出されることを知っているし、内容も理解できる」が297人と最も多く、以下、「そのような情報があることを知らない」が260人、「情報が出されることは知っているが、日本語が分からないため、内容は理解できない」が164人、「情報が出されることは知っているが、その情報をどのように入手すればよいか分からない」が145人となっている。

自然災害が発生したとき、あなたが住んでいる市町村から
避難についての情報が出されることを知っていますか

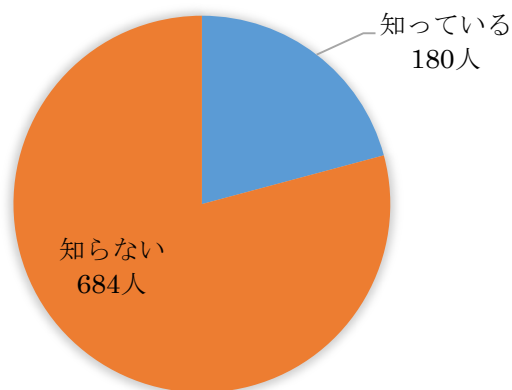
単位：人



Q23 「京都府は、日頃からホームページ（きょうと危機管理 WEB <http://www.pref.kyoto.jp/kikiweb/>）などで
防災に関する情報を発信していますが、そのことを知っていますか。」（N=864人）

「知らない」と回答したのが 684人、「知っている」と回答したのが 180人であった。

京都府は、日頃からホームページなどで防災に関する情報を発
信していますが、そのことを知っていますか



日本人住民を対象とした日本語教育等に関するアンケート

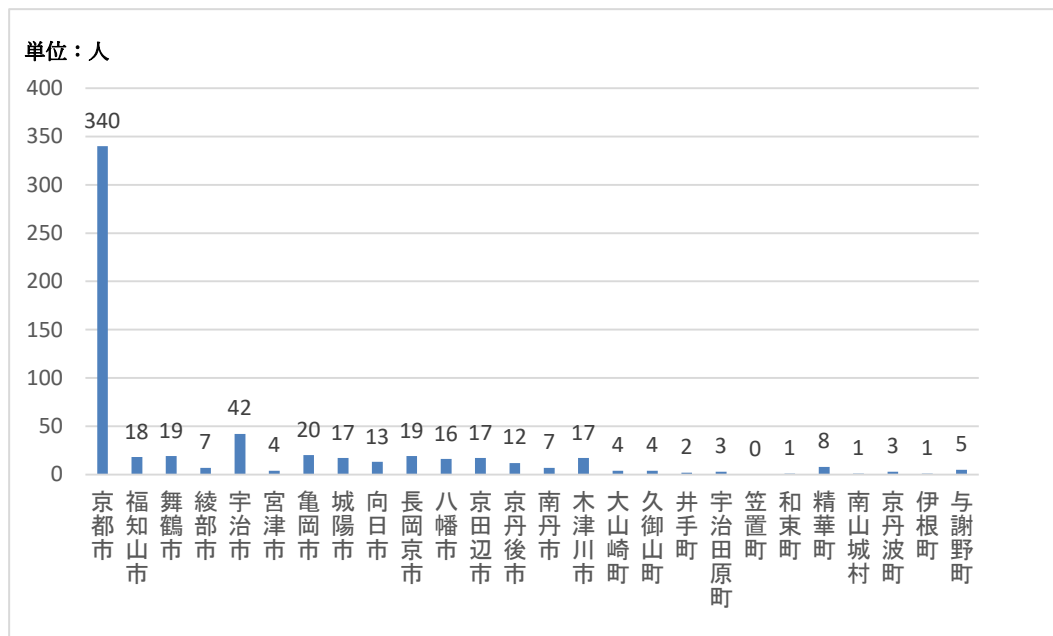
(1) 調査方法

インターネット調査

(2) 回答結果

*日本人住民アンケートについては、すべてN=600人である。

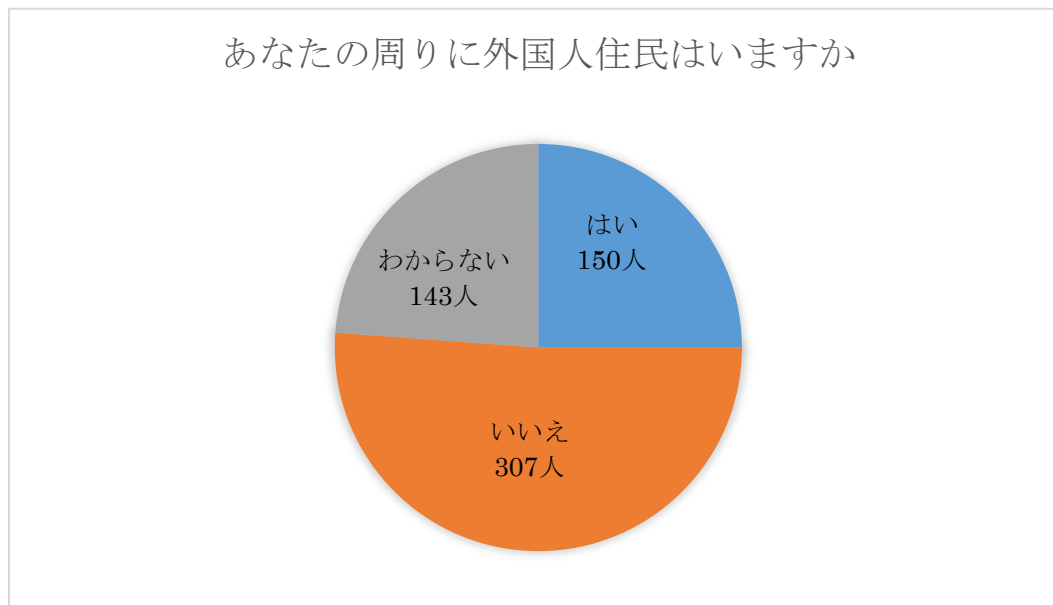
➤ あなたがお住まいの市町村はどこですか。



Q1 あなたの周りに外国人住民はいますか。

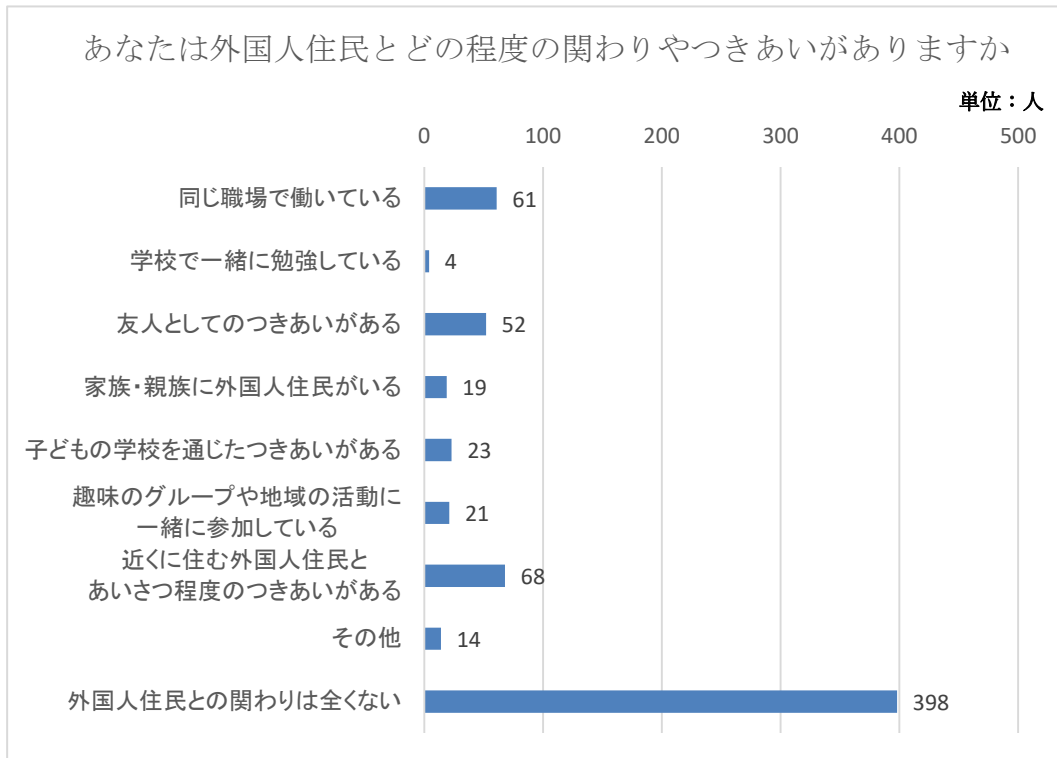
※「外国人住民」とは、外国籍を持ち日本に居住する方です。

「いいえ」が307人(51%)と過半数を超えて最も多く、次いで「はい」が150人(25%)、「わからない」が143人(24%)となっている。



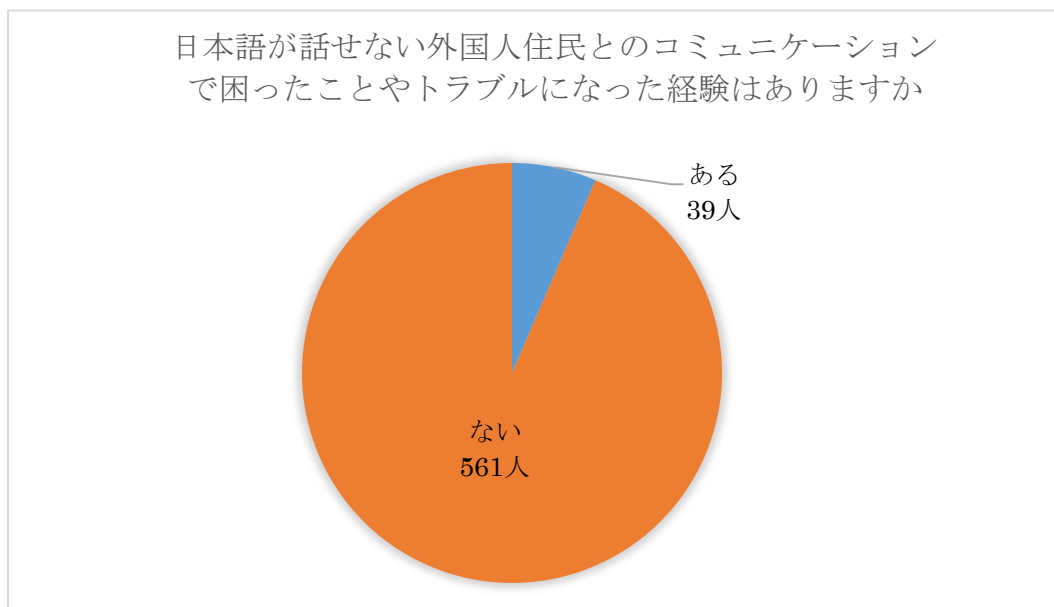
Q2 あなたは外国人住民とどの程度の関わりやつきあいがありますか。*複数回答

「外国人住民との関わりは全くない」が 398 人（66%）と最も多く、次いで「近くに住む外国人住民とあいさつ程度のつきあいがある」が 68 人（11%）、「同じ職場で働いている」が 61 人（10%）などとなっている。



Q3 日本語が話せない外国人住民とのコミュニケーションで困ったことやトラブルになった経験はありますか。「ある」と回答された場合、具体的な内容もご記入ください。

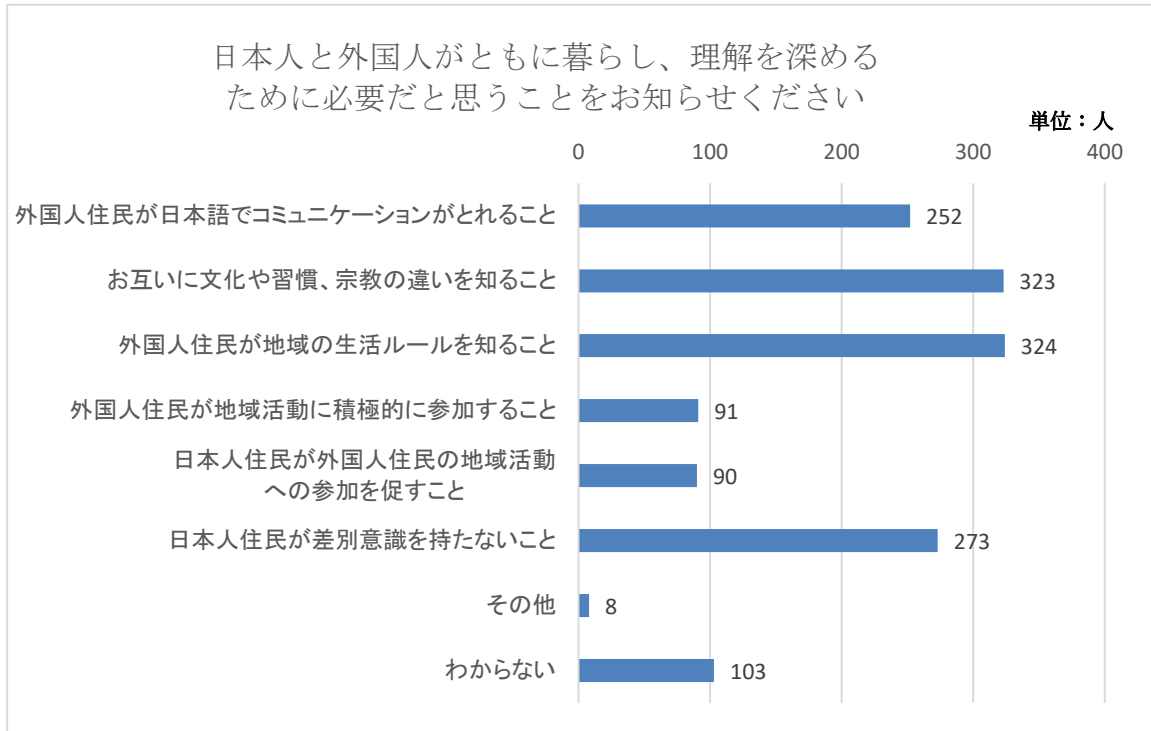
「ない」が 561 人（94%）、「ある」が 39 人（7%）となっている。



困った内容：意思疎通ができない／ゴミ出し／道を聞かれて

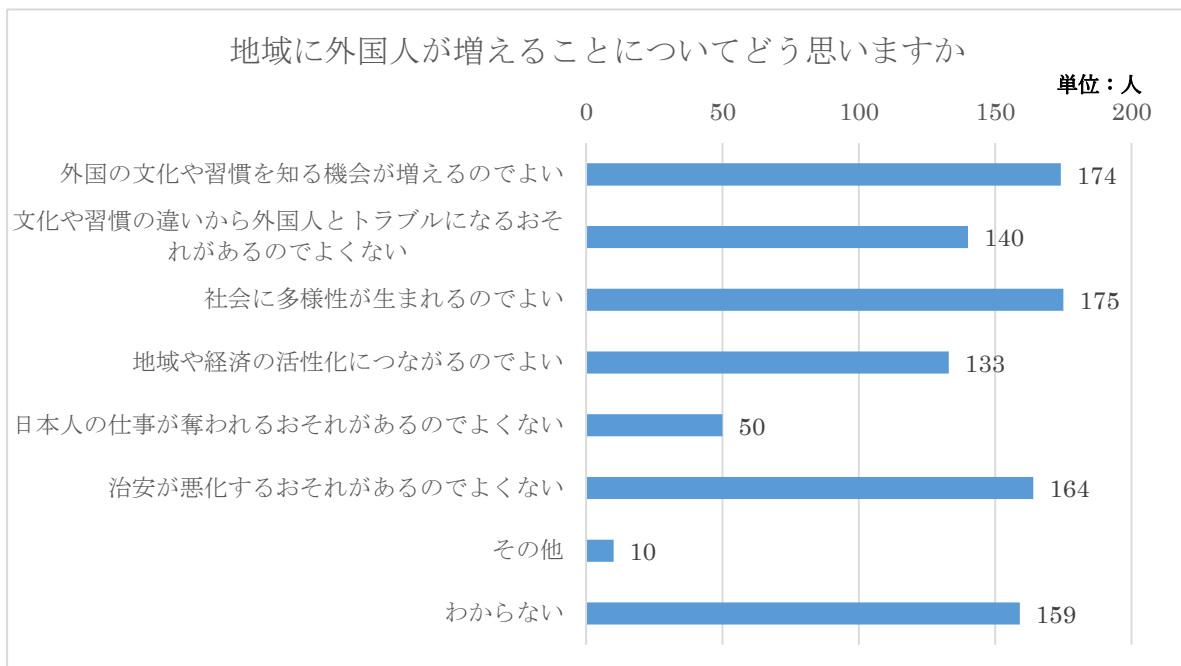
Q4 日本人と外国人がともに暮らし、理解を深めるために必要だと思うことをお知らせください。*複数回答

「外国人住民が地域の生活ルールを知ること」が 324 人、「お互いに文化や習慣、宗教の違いを知ること」が 323 人と僅差で並び、以下「日本人住民が差別意識を持たないこと」が 273 人、「外国人住民が日本語でコミュニケーションがとれること」が 252 人などとなっている。



Q5 入管法の改正により今後、外国人住民が増加すると思われませんが、地域に外国人が増えることについてどう思いますか。*複数回答

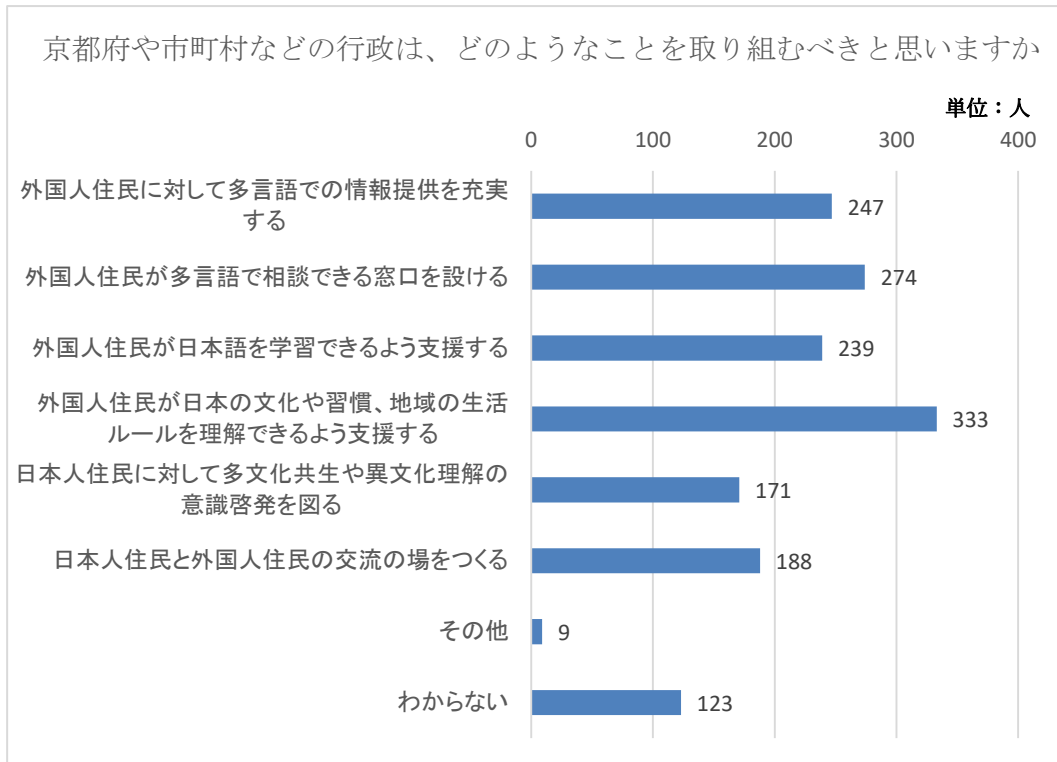
「社会に多様性が生まれるのでよい」が 175 人、「外国の文化や習慣を知る機会が増えるのでよい」が 174 人と僅差で並び、以下「治安が悪化するおそれがあるのでよくない」が 164 人、「文化や習慣の違いから外国人とトラブルになるおそれがあるのでよくない」が 140 人などとなっている。



Q6 日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい社会にするために、京都府や市町村などの行政は、どのようなことを取り組むべきだと思いますか。*複数回答

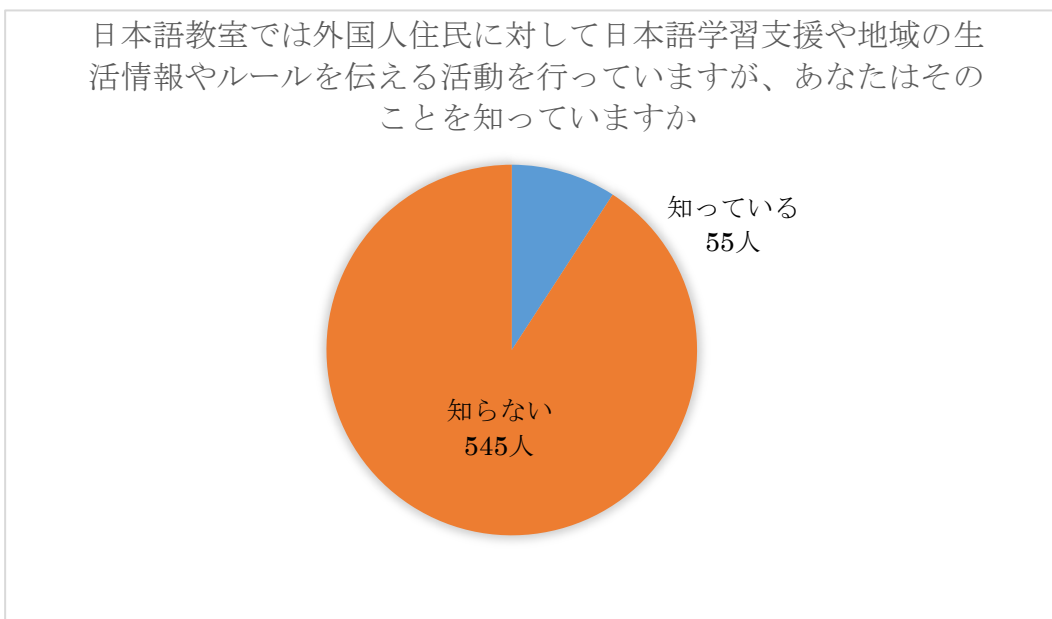
「外国人住民が日本の文化や習慣、地域の生活ルールを理解できるように支援する」が 333 人と最も多く、

次いで「外国人住民が多言語で相談できる窓口を設ける」が 274 人、「外国人住民に対し多言語で情報提供を充実する」が 247 人、「外国人住民が日本語を学習できるよう支援する」が 239 人などとなっている。



Q7 地域の有志によって行われている日本語教室では外国人住民に対して日本語学習支援や地域の生活情報やルールを伝える活動を行っていますが、あなたはそのことを知っていますか。

「知らない」と答えた人が 545 人（91%）で、「知っている」と答えた人は 55 人（9%）であった。



Q8 日本語教室のような取り組みは今後地域にとって必要だと思いますか。

「必要だと思う」が 262 人（44%）と最も多く、次いで「やや必要だと思う」が 206 人（34%）、「わからない」が 84 人（14%）、「あまり必要だとは思わない」が 29 人（5%）、「必要だとは思わない」が 19 人（3%）となっている。

日本語教室のような取り組みは
今後地域にとって必要だと思いますか

